

JA全農は、①肥料②米穀③園芸④農薬⑤農機・段ボール⑥飼料⑦輸出——の各事業について、事業改革の具体策と年次計画を策定しました。全農自己改革の“新たな挑戦”を全8回シリーズで紹介します。

改革方向

農機は機能を絞った低価格モデルの共同購入を強化する他、大型コンバインの共同利用や野菜作機械のレンタル事業拡大、中古農機の流通促進などで価格引き下げをめざす

段ボールは全国指定野菜などの青果物向け段ボール箱を輸送用パレットに最適な標準規格に集約。需要結集させ、低コスト化を追求する

事業環境

農機
○農機の国内出荷額は輸入を含め約2900億円
○主要農機の国内向け出荷台数は年々減少
○一方で、大型・高性能機械の割合は増加

段ボール
○国内段ボールの生産量は年々微増。しかし、昭和55年に約18%あった青果物ウェイトは平成28年には約10%まで減少
○生産部会・JAや県域で販売戦略が策定され、段ボール箱の寸法・材質・形状などを決めるため、様々な段ボール箱が流通し、多くの規格が存在
○青果物物流では、手荷役からパレット荷役へのシフトが喫緊の課題。パレット寸法に最適な段ボール箱寸法設計の見直しが必要

改革具体策・年次計画

機能絞り込み低価格 所有から利用へ転換も

農機

1 機能を絞った低価格農機の共同購入

- 生産者の意見を反映し、低価格モデル農機(大型トラクター)の仕様を決め、メーカーに開発を要求
- 性能・機能・価格を徹底検証・比較し、最も有利な条件で一括仕入れ

2 「所有」から「共同利用」への転換

- 農機シェアリース(大型コンバインの共同利用)や野菜作機械レンタル事業の拡大

3 中古農機の流通促進

- 中古農機査定士の育成と、インターネットを活用した中古農機の情報発信

項目	29年度	30年度	31年度～
農機			
1 機能を絞った低価格モデル農機の共同購入	モニター活動 → 仕様決定 → メーカーへ開発要求	メーカーより製品提案 → 各社比較し一括仕入れ ↑ 全国集約 提案先リストアップ → 個別説明 → 実オーダーの積み上げ	機種・クラスの拡大
2 「所有」から「共同利用」への転換	大型コンバインの共同利用 10チーム(50経営体) タマネギ・白ネギ用機械のレンタル	30チーム(200経営体)	50チーム(400経営体)
対象作物を順次拡大			
3 中古農機の流通促進	査定士育成(累計500人) インターネット活用による情報発信モデル地区(関東)での実証	査定士育成(累計600人) エリアの拡大	査定士育成(累計700人) 全国展開

規格集約で需要積み上げ 低コスト化を追求

段ボール

1 輸送用パレットの寸法にあわせ規格集約

- 県域を越えた広域エリアで主要の輸送用パレット寸法に最適な段ボール箱標準規格を設定し、規格を集約。全国需要を積み上げて価格交渉し、発注する
- 平成29年度はタマネギ、サトイモ、ピーマンの3品目から着手。JAや部会などと協議し、31年度までに、現在の1300規格の3割程度を標準規格に集約

項目	29年度	30年度	31年度～
段ボール			
1 規格集約による段ボール価格の引き下げ	標準規格のJA協議 → 標準規格の決定 → 輸送試験実施	実需積み上げにもとづく価格決定、発注	全国指定野菜、各地主要青果物を品目別に、順次、左記のサイクルで集約
※輸送効率向上のため、国内のパレット等の規格統一促進も重要と認識			